

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立橋中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 837-0911
福岡県大牟田市大字橋664番地1

E-mail tachibana-js@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/tachibana-jh/

幼児児童生徒数 男子 128名 女子 138名 合計 266名
生徒の年齢 13歳 ~ 15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要

大牟田市は、本年度、市制100周年を迎え、市を挙げて様々な取組を行った。一方、人口に占める高齢化率の高い都市であり、「人が真ん中のまちづくり」のキャッチコピーのもと、様々な施策がとられている。この状況をふまえ、本校は、「人とまちの100年物語」と題して、大牟田市の福祉の現状を知り、生徒自身が自分にできること、しなければならないこと等を考えて、主体的に行動できる生徒の育成を目指している。また、大牟田版SDGsをふまえ、福祉・キャリアに関する学習を中心に系統的かつ計画的に取り組んでおり、これらの取組は、将来のわが国及び大牟田市の福祉を担う人材育成につながると思う。

本校は、「①持続可能な発展のために求められる価値観や行動を教育活動全体で育むこと。②環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと。③人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと。④他人・社会・自然環境等との関係性を認識して、『かかわり・つながり』を尊重する心を育むこと」を学校理念としている。また、ESDを「未来をつくる人材を育成するための学習」と捉え、ESDの実践を通して、コミュニケーションを行う力、他者と協力する力、つながりを尊重する態度の育成が目標である。具体的には、福祉教育、世界遺産学習、キャリア教育を柱に、少子高齢社会に係わる学習、世界遺産に係わる学習、ユネスコスクール間の交流を行った。また、「世界で一番大きな授業2017」にも参加している。

①福祉教育Ⅰ(少子高齢化の問題に係わる学習を中心に)

大牟田版SDGsに掲げた目標の達成に向けて、学習の成果を共有し、「人が真ん中のまちづくり」の地域福祉に参画するためのキャッチコピー・行動目標をつくり、みんなで支え合う地域づくりへの参画や地域の方々とつながろうとする意欲を高めることができるようにした。さらに、考えの根拠を明確にしながら、地域の一員としてこれまで自分が取り組んできたことの成果と課題を明確にしたり、これからの大牟田の地域福祉をさらに充実するために何ができることを考えたりすることができるようにした。

②福祉教育Ⅱ(身体の不自由な方々に係わる学習を中心に)

生徒会活動において、地域とつながるボランティア活動(プルタブ回収による車いす寄贈やペットボトルキャップ回収によるワクチン寄贈)を行った。

③世界遺産に関わる学習

大牟田市には、世界文化遺産として、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の建造物等がある。これらの遺産について、大牟田市教育委員会が発刊した「中学校版世界遺産学習教材集」をもとに学習をした。第2学年は、修学旅行先の奈良・京都で、「古都奈良の文化財」「古都京都の文化財」にふれる自主研修を行った。その研修成果を発表会において報告するとともに、外国の方に英語で大牟田を紹介した。

④ユネスコスクール間交流

本校は、これまでも、東日本大震災で被災した宮城県気仙沼市立気仙沼中学校に義援金を送った経験を持つ。平成28年に発生した熊本地震は、大牟田市でも震度5の大きな揺れを体感し、子どもたちは地震の恐怖を身をもって経験した。その後、自分たちに出来る支援活動を考え、様々な機会や場において、被災地支援の募金活動を行い、ユネスコスクールとして活動している熊本県宇城市立不知火中学校に見舞金を届けた。また、「世界で一番大きな授業2017」に参加し、SDGsの達成に向けて世界各国のユネスコスクールと交流した。



①ユネスコスクール全国大会での授業



②地域の方々と協力して集めたプルタブ



③京都で外国の方に大牟田を紹介



④宇城市立不知火中学校との交流

(2) 活動の詳細

① 活動内容

1 福祉教育 I (少子高齢化の問題に係わる学習を中心に)

本年度、大牟田市において開催されたユネスコスクール全国大会において、福祉に関わる公開授業を行った。授業では、国連ハビタットの職員をゲストティーチャーとして迎えて、国内のユネスコスクール(静岡県伊豆市立天城中学校、福井県勝山市立勝山中部中学校、愛媛県新居浜市立北部中学校)等との交流の様子を紹介し、少子高齢化の問題が、本市のみならず、わが国の様々な地域が抱える普遍的な課題であることをとらえた。また、本校の校区では、まちづくり協議会とタイアップした吉野小学校(平成29年度ESD大賞受賞校)の「桜プロジェクト」をベースとして、校区の方々と学校との協働がさかんに行われており、本校も「総合的な学習の時間」を中心に特別活動や教科の学習において、持続可能な社会の構築に向けて様々な取組を行っている。学校外においても「認知症SOSネットワーク模擬訓練」に参加するなど、地域との協働を行っている。さらに、「高齢者疑似体験学習」や「認知症絵本学習」などの体験学習や地域の保育園・幼稚園とタイアップした「保育体験学習」などを行っている。



保育体験学習

これらの体験学習をふまえて、大牟田の地域福祉を充実するために何ができることを考え、大牟田市社会福祉協議会に提言文を提出した。以下に公開授業で行った学習の単元計画を示す。

【3年:「人が真ん中のまちづくり～ひととまちの100年物語～」】

目標	SDGsをふまえ、大牟田市のこれからの福祉(高齢者福祉・障がい者福祉・児童福祉等)の今後のあるべき姿について、地域の方々や関係機関等の思いや願い、体験活動、調査活動を通して、自分の考えをつくり多様な方法で発信し、実践することを通して、地域の福祉のまちづくりに参画したいという思いを持つことができるようにする。
実際の展開の概略	<p>①市役所の担当者の話を聞いたり、パネルを見たりして、福祉の現状を知る。</p> <p>②認知症絵本学習、高齢者疑似体験学習、車いす体験学習等をふまえ、ユニバーサルデザインの視点に立つまちづくり、福祉のあり方についてプランをつくり交流する。</p> <p>③自分たちにできることを考え、発信し、行動化する。(SDGs達成に向けた企業等のCSRに参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルキャップ回収 ・空き缶プルタブ回収 ・電力会社・新聞社の活動 ・ふれあいボランティアパスポート ・ユニセフ募金活動 <p>④これまでの活動を振り返り、成果と課題を共有し、プランの加筆・修正を行う。</p> <p>⑤「世界で一番大きな授業2017」へ参加し、社会福祉をめぐる状況について体験を踏まえ、多面的・多角的にとらえて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育体験学習 ・認知症SOS行動訓練 ・法教育授業 ・年金教室 ・税金教室 <p>⑥体験を振り返り、成果と課題を交流し、共有するとともに、他のユネスコスクールとの意見交流を行う。</p> <p>⑦キャッチコピーの設定について話し合い、国連ハビタットの方の話をうかがう。</p> <p>⑧学習した成果をふまえて、大牟田市社会福祉協議会へ行動宣言を提言する。</p>

2 福祉教育Ⅱ(身体の不自由な方々に係わる学習を中心に)

SDGs の学習において、世界には、様々な状況の下で生活をしている人がいることを学んだ。また、「身体の不自由な人の体験学習」で、目や耳、手足が不自由な方々が、実際にどのような状況で生活をしておられるのかを追体験した。これらの学習をふまえ、自分たちにできることについてディスカッションを行い、「ペットボトルキャップ回収」によるワクチンの支援(イオン及び聖マリア病院 I サイクルプロジェクトとの協働)および「空き缶プルタブ回収による車いす寄贈」に取り組んだ。これらの収集活動を行う際に、地元の大牟田中央ロータリークラブ、三井金属、JAみなみ筑後、マルシヨク吉野店、社会教育施設リフレスおおむたなどの協力を得た。集めたプルタブは換金し、その資金をもとに、職場体験学習でお世話になっている小規模多機能施設へ車いすを寄贈した。



施設への車いす寄贈

3 世界遺産学習

本校では、大牟田市教育委員会が発刊した「中学校版世界遺産学習教材集」をもとに世界遺産学習をすすめている。第2学年は、修学旅行先の奈良・京都で、「古都奈良の文化財」「古都京都の文化財」にふれる少人数グループごとの自主研修を行い、研修成果を発表会において報告した。自主研修では、京都で出会った外国の方に英語で大牟田のことを紹介する活動を行った。生徒たちは、習得している英語が外国の方に通じるかどうか不安の様子だったが、話したいことが伝わるのが分かったと、ホッとしていた。また、出会った外国の方に、大牟田の特産物である大蛇山グッズを渡すとともに、本校のアドレスを伝えていたところ、後日、多くの外国の方から、お礼のメールをいただいた。このメールに生徒たちは喜び、大牟田のことを伝えることができた有用感を味わうとともに、自分たちの英語でコミュニケーションをとることができたことに自信を深めた。



金閣寺の前で外国の方と

4 ユネスコスクール間交流

平成28年に発生した熊本地震は、大牟田市でも震度5の大きな揺れを体感し、子どもたちは地震の恐怖を身をもって経験した。その記憶は、まだ新しい。その後、防災に関する様々な学習を経て、生徒会を中心として、自分たちに来る支援活動を考え、吹奏楽部の定期演奏会や地域のイベントなど様々な機会や場において、地域の方々のご協力のもと、被災地支援の募金活動を行った。

そして、平成30年2月に、ユネスコスクールとして活動している熊本県宇城市立不知火中学校に生徒代表が赴き、見舞金を届けている。

また、JNNE、(公財)プラン・インターナショナル・ジャパンが行っている「世界で一番大きな授業2017」に参加し、SDGsに関する学習を進める一方で、その達成に向けて自分自身や生徒会で出来ることについて、ディスカッションを行った。



不知火中学校での協議

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した主な教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<p>【福祉教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いつだって心は生きている」 認知症ケア研究会 ・第3次大牟田市地域福祉計画 大牟田市 ・「Iサイクル」web サイト http://www.st-mary-med.or.jp/icycle/ <p>【世界遺産学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界遺産学習 中学校版教材集」 大牟田市教育委員会 ・大牟田の近代化産業遺産ホームページ http://www.miike-coalmines.jp/index.php ・大牟田市プロモーションサイト～それなら大牟田！～ http://www.city.omuta.lg.jp/cp/ ・古都京都の文化財 http://www.pref.kyoto.jp/isan/index.html <p>【ユネスコスクール間交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクール公式WEBサイト http://www.unesco-school.mext.go.jp/ ・SDGsについて 国際連合広報センター http://www.unic.or.jp/ ・世界で一番大きな授業 http://www.jnne.org/gce/

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、学校教育目標(めざす生徒像、学校像など)の達成に向けて、教育活動全体でE S Dを推進している。E S Dを核とした課題解決型の学習過程を重視するために、総合的な学習の時間、各教科、特別活動、道徳などを関連付けた教科横断的な指導計画、E S Dカレンダー等を作成し、教育課程に位置付けている。また、アクティブ・ラーニング(「主体的・対話的で深い学び」)を推進していくために、各教科の教科経営案を作成して年間の教育指導計画にその旨を位置付け、日々の授業において実践を行っている。また、授業においては、きめ細やかな指導に対応するために、様々な場面において、少人数授業を推進するとともに、学習指導要領に基づく学習内容を踏まえたカリキュラムを作成し、子どもの実態等を踏まえ、随時、見直しを図るとともに改善をすすめている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌にユネスコスクール担当者を位置付けるとともに、E S D推進委員会を設置している。これらの係は、大牟田市のユネスコスクール担当者会と連動しており、校内のE S Dに係る取組の推進はもとより、市内全体のユネスコスクールの活動の発展に向けた取組も行っている。具体的には、学校と様々なステークホルダーとの連携の窓口の役割を担っており、持続可能な社会の構築のための社会に開かれたネットワークを築く役割を果たしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動の質の向上のために、本校では、毎学期、内部評価および外部評価を行っている。これらの評価によって、本年度に指摘された事項は、学校の活動の広報活動の強化である。本校は、ホームページを開設しており、年間100回ほどの更新を行い、様々な情報を発信しているが、この情報が地域や保護者に十分に届いていないという実態が判明した。文書による発信も併せて行っているが、速報性、情報量ともに、ホームページの力は大きい。トップページのデザインも8年間変わっておらず、内容の充実と共に、次年度は変えていく必要がある。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

本校のユネスコスクールの取組は、学校通信やホームページはもとより、市のユネスコスクールたよりやフェイスブック、大牟田市教育委員会発行の教育みらい創造室だよりなどにも紹介されている。校区の様々な集まりやイベント等においても随時発信しているが、まだ認知度が低いことが現状である。保護者の中には、小学校から通じて大牟田市全体でESDに取り組んでいるので、理解も深まってきているが、地域の方々の認知度については、課題が残っている。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

本校のESDを推進するにあたり、大牟田市教育委員会や大牟田市ユネスコスクール支援センターなどから活動上の支援を受けた。実際に活動を行う際には、有明工業高等専門学校や大牟田中央ライオンズクラブ、大牟田市社会福祉協議会、JAみなみ筑後、市内の様々な事業所、保育園、幼稚園、老人保健施設等の協働体制のもと、活動をすすめることができた。また、大牟田市教育委員会が形成しているコンソーシアムからの支援や、研修面ではUNIV. NETの福岡教育大学からの指導を受けた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

本校には、ACCU・日米教育委員会主催の「日米教員交流研修」に参加した教員がおり、ポータルサイトに参加している。そこに参加しているアメリカのアルバカーキの学校などと情報交換を行っている。また、本年度は、国内のユネスコスクール（静岡県伊豆市立天城中学校、福井県勝山市立勝山中部中学校、愛媛県新居浜市立北部中学校）との学習内容に係る交流を行った。さらに、熊本地震で被災した宇城市立不知火中学校へ実際に行き、見舞金を送るとともに、今後の交流について話し合いを持った。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

今年度、「子どもどうしの顔の見える交流」として、宇城市立不知火中学校と交流を始めたことは、子どもたちのユネスコスクールの活動のモチベーション向上につながった。また、市制100周年に併せて本校で推進している「ひととまちの100年物語」の取組は、人生100年とまちづくりの100年をコラボさせたものであり、カリキュラムマネジメントを行う上でも、一つの契機となった。また、この試みは、社会に開かれた教育課程を編成していく上でも大きな成果を上げることができた。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

平成30年度も「福祉教育」および「キャリア教育」を柱として活動を進めていく。次年度は、1年生が阿蘇へ野外学習に行くため、防災教育やジオパークに係る学習も行う予定である。学校間交流については、本年度交流をしていた学校とは引き続き交流を続け、テーマに応じて新規の交流校も求めていく。宇城市立不知火中学校への人的往来も続ける。大牟田市のユネスコスクール支援センター等との連携もすすめて活動を推進する。